
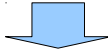
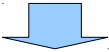


市民インタビュー及びアンケートについて

項目	主な意見 など	分析・評価 など
1. ごみの増加要因	<ul style="list-style-type: none"> ❖ ごみが増加している（出している）感覚はない。 ❖ ごみ出しの「マナー」に関する意見が多い。 [例] 曜日を守らない。ネットを掛けない。分別不徹底。 ❖ （若松市の）分別やごみ出しのルールは分かりやすい。 ❖ ごみ袋が指定されていないので助かる。 ❖ ごみの件で、市のホームページを見ることは少ない。 ❖ 震災の影響は、あまり感じていない。 ❖ 震災時に壊れた食器を処分（廃棄）したことはある。 ❖ 退職を期に家の片付けを始めた。友人にも片づけを始めた人がいる。 ❖ 震災以降、家の片付けを行った。（自宅・実家） ❖ 安く購入できる商品が多いので、すぐに買い替えてしまう。また安い商品は壊れやすい。これらがごみ増加の要因になっているのかもしれないなあ。 ❖ 最近チラシが多いような気がする。景気が回復しているのか…。 ❖ 賞味期限、消費期限切れの食材を処分することがある。 ❖ 剪定枝が多い印象を受けるね。（ごみステーション） ❖ 介護用のオムツが増えたかも…。 ❖ 消費税率の改定に際し、駆け込みで商品を購入した。 ❖ 家庭菜園の野菜は、購入したものより廃棄する部分が多いかもしれない。（根・葉など） 	<p>①（平成23年度～平成25年度にかけてごみが増加したが）ごみ増加を実感している市民は少ない。</p> <p>② ただし、一部からは</p> <ul style="list-style-type: none"> ア) 震災の影響で家財道具を処分した イ) 消費税率の改定に伴い家具類を買い替えた ウ) 退職を期に身の回りを整理した 旨の意見も出された。 <p>③ ごみ減量化対策として「分別やリサイクル」に取り組んでいる市民がほとんどである。</p> <p>→ 通常「資源物として排出したモノがごみの量に含まれる」とは思わないので、そもそも「ごみにならないライフスタイル」まで意識している人は少ない。</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <p>リサイクルに比べ、リデュース・リユースの意識が低い傾向にある。よって「減量化」の意識を浸透させることが重要。</p> <p>介護形態の変化や片付けごみの増加、食品ロスといった新たなごみ増加の要因も見られる。社会の流れや変化を的確に捉え、効果的な施策を検討すべき。</p>

<p>2. 分別・リサイクルに対する意識</p>	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 日頃から「雑がみ」の分別をしている。 ❖ 「雑がみ」の分別を知らなかった。私のように知らない人もいると思うので、もっと周知した方が良いのでは。 ❖ プラ製容器の分別をしているが、洗浄の程度が分からない。水や洗剤を使いすぎれば、逆効果という感じもするし…。 ❖ 分別に迷う時がある。きめ細かな分別方法を知りたい。 ❖ 町内会の集まりで（分別に係る）説明を行うと良いのではないか。分別の方法を聞けるのはありがたい。 ❖ 買い物の時に（トレイ等の）店頭回収を利用している。 	<p>① 約半数の方が「雑がみ」を分別している模様。 ② 総じて分別に対する意識は高い。 「分別の区分を詳しく知りたい」という意見も多い。</p> <p style="text-align: center;"></p> <p>「雑がみ」の分別徹底を新計画でも位置づける。</p>
<p>3. 発生抑制（リデュース）再使用（リユース）に対する意識</p>	<ul style="list-style-type: none"> ❖ トレーが邪魔（ごみ）になる。ノントレー販売があると嬉しい。 ❖ 古着（リユース品）について、他人（知らない人）のモノを着ることに抵抗がある。 ❖ スキーウェアや制服などは、子供の成長にともなうてすぐに着れなくなる。これらの品物を交換（譲渡）する仕組み、或いはイベントがあるとよい。 ❖ ごみの収集を有料化する或いは収集頻度を減らしたりすると、もっともっと「ごみ減量化」に取り組むのではないか。 ❖ ごみ処理有料化には反対。不法投棄や野焼きが増えるだけ。市民の意識を高めることが重要でしょう。 	<p>① 「ごみの量」まで意識している市民は少ない。 ② 「ごみの減量化が必要」という問題意識には至っていない模様。 ③ リユースに関して、「提供したい」という意識を持っている人は多いが、逆に「利用したい・使いたい」人は少ない。 → 需要と供給がマッチしていない。</p> <p style="text-align: center;"></p> <p>「2Rの推進」を基本方針に位置づける。 また、減量化の意識付けるため、目標値をタイトルに示す。 ～プロジェクト970～</p>

4. 実践可能な ごみ減量の取り組み

- ❖ 時折、不要なモノまで買ってしまうことがある。こうした行為は改められる。
- ❖ レジ袋や過剰包装は辞退するように心がけている。
- ❖ 生ごみの水切りは実践できます。
- ❖ 生ごみの水切りについて、あまり気にしていないなあ。
- ❖ 生ごみをコンポストで堆肥化している。
- ❖ コンポストは、あれば便利だが、虫や臭いが発生するため家族や近所から嫌がられる。普及は難しいのではないか…。
- ❖ 野菜について、できるだけ皮や芯まで調理するようにしている。
- ❖ 多少高くても、容器包装が少なくなるように「真空パック」詰めの商品を選んでいる。
- ❖ 価格が安いなら「量り売り」の商品を購入してもよい。
- ❖ 賞味期限と消費期限を正しく理解することが大事。
- ❖ 衣類を処分する際は、リサイクルショップに出している。
- ❖ バザー、フリーマーケットに参加している。

ごみ減量化に対して

① 生ごみの水切り、レジ袋の削減、過剰包装の辞退、長く使える商品の購入など 身近な取り組みに対して関心が高い。

一方で、環境負荷の少ない商品の購入（グリーン購入）については関心が低い。

② 7) 学校やサークルを通じた子供用品の譲渡・交換会
1) リユース品による国際支援
などのアイデアも出された。

③ 生ごみの堆肥化について、農村部では一定の取り組みが見られる。

しかし、都市部では、管理面の課題があり、なかなか普及していないのが実情。

→ 近隣に与える臭気、自宅敷地にスペースが取れない。

④ 商品販売で使用されている「プラスチック製のトレイ」に対する疑問も投げかけられた。

→ 肉・魚の販売に利用されているトレイが大量に出る。必要なモノなのか？ といった意見。



実践しやすい「3キリ運動」を具体的施策に位置づけ、ごみの減量化を図る。

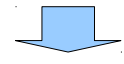
グリーン購入の理解を促進するすため、施策に位置づける。

「店頭回収」を施策に位置づけ、事業者と協同して更なる促進策を検討していく。

5. その他

- ❖ 自治体によっては、（若松市より）分別の種類が少ないところもある。
「分別の意義」について知りたい。
- ❖ 世代間や地域の情報共有化（コミュニケーション）を図れば、もっと分別やごみ減量化が実践されると思う。
- ❖ 分別やごみ減量化は、職場や家庭の影響を受けると思う。
- ❖ ホームページや市政だよりは見ないなあ。なので、テレビで広報すると効果的では…。
- ❖ 幼稚園や学校のお便りは親が目を通すことが多い。よって、学校を通じた情報発信も効果的だと思います。
- ❖ （普段買い物をしている）店舗に、ごみに関する情報があると関心を持つのではないか…。
- ❖ 今後、高齢者等がごみを出しやすい環境の整備が必要ではないか。
- ❖ ごみ分別のアプリは、あれば便利だと思う。しかし、個人的には利用する予定は無いね。

- ① ごみ出しのマナーに関する意見が多い。
[例] 曜日を守らない。ネットを掛けない。分別を徹底していない。
- ② 「ごみ袋が指定されていない」ことは、市民にとってもメリットがある。
- ③ ごみの件を市のホームページで確認している人は少ない。



マナー向上や意識高揚を図るため、引き続き「相互理解の推進」を基本方針に位置づけることとし、特に、双方向型（対話）による理解促進を展開する。